

北菓楼小樽本館

- 物件名：北菓楼小樽本館
- 住所：堺町7-22
- 電話：31-3464
- 所有者：日藤株式会社
- 運営者：株式会社北菓楼
- 主任と人員：藤田康治、15人
- 建物履歴

明治頃 藤居氏 築蔵
株式会社日藤 本社（本店）
その後、株式会社日藤小樽支店として使用
平成14年 北菓楼小樽本館オープン
平成15年 小樽市都市景観賞受賞

※日藤株式会社

昭和12年 日藤商店小樽にて創業
昭和23年 株式会社日藤商店と改称
昭和38年 日藤株式会社と改称
昭和40年 本社を札幌に移転 小樽の旧本社は小樽営業所へ
平成11年 小樽営業所を天神町へ移転
移転に伴い2棟の倉庫前の事務所および木造倉庫を解体
解体地を「日藤メモリアルガーデン」として整備



外観

■外観

- 札幌軟石／通称札幌軟石と言われているが、厳密には「小樽軟石」である。正式には「小樽系軟石」と言う。札幌軟石に比して、黒っぽい。加工の容易さにより、軟石がこの時代多く用いられたと推測される。外部の石材に関しては、一切手を加えず、洗浄のみを行い、店舗に使用するための出入り口の周囲をコンクリートにて補強し、外壁は当時のまま使用している。屋根は板金葺き替えとし、排煙窓を増設し、暖炉用煙突を増設している。外部空間を含めて、平成15年「小樽市都市景観賞」を受賞している。
- 余談／軟石の運搬方法：馬の背の左右に片側1個（3切り）105kg、計210Kgを渡して運んだとのことです。小樽軟石の採掘場は、①手宮採石場 ②奥沢採石場 ③桃内（塩谷と忍路の間）海岸採石場の、3カ所だったそうです。札幌軟石は支笏湖の噴火によってできた、溶結凝灰岩（軟石）であり、札幌市の石山地区、常磐、その他から採掘されていたが、近年は1カ所のみ採掘されている。小樽軟石の採掘場は、現在は存在しないので、補修などは札幌軟石を使用している。

■内観

内部は耐震補強のため、内部から外壁石材に木骨の柱をとめ付け、補強している。漆喰にて内装仕上げを施しているため、内部から石材は見えない。築造時は、内部が一部4階建ての建物であり、1～2階を事務所、倉庫として使用し、上部階は（株）日藤さんの社員が住み込みで宿泊する室も有ったようであるが、現在は小樽市の行政指導により、2階まででの使用が許可されている。

■内容

観光客に人気の堺町通りと運河通りに面していることもあり、地元のお客様のみならず多くの観光客も訪れる。小樽らしい歴史的な石の蔵を改装した店舗ということで、お店の前では記念写真を撮る方も多く、お店は小樽の観光スポットのひとつとして定着している。北菓楼の代表商品の1つで、日本一のしっとりバウムクーヘンとの評判が高い「バウムクーヘン妖精の森」は、小樽本館の開店記念商品として生まれた商品だが、その後、人気が高まり、今では北菓楼全店で取り扱われる、北菓楼を代表するまでの商品に育った。

■コンセプト

「北海道の自然が生み育んだ北のお菓子、北菓楼」をスローガンに、「（北）北海道にお（菓）子の（楼）閣を作る」という思いをこめて生まれた北菓楼。北海道産素材にこだわり、北海道に根差した菓子屋を目指す北菓楼にとって、長年小樽の人々に親しまれてきた歴史ある石の蔵は、小樽に店を出すにあたり最適な物件だった。開店にあたっては先代の社長、堀均（ほりひとし）が北菓楼の小樽本館としての店づくりに熱情を傾け、小樽の人気店にまで育て上げた。現在は弟の堀安規良（ほりあきら）が時代のニーズや嗜好に合わせてお店や商品も変化させながら、お客様に更に支持されるお店を目指して取り組んでいる。

■客層

菓子店のため女性客が多い一方、小樽という観光地のため、他の北菓楼店舗よりも男性客は多い。半数以上は小樽を訪れる観光客で、近年では海外からの観光客も増えている。堺町通りからも運河通りからも出入りできるので、気軽に、ふらりとでも入りやすいお店。

北菓楼小樽本館



マークにも気遣い



扉にも気遣い



清潔感あふれる店内



バウムクーヘン工房



おいしそうな香り漂う

